



園だより

文京区立第一幼稚園
令和2年度3月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

遊び、学び、歩み続けた子供たち

園長 田村 秀子

梅の花がきれいに咲き、蜜を吸いに小鳥も飛んでくるようになりました。沈丁花のつぼみもほころんで、よい香りを漂わせています。保育室には、各学級の子供たちが作ったかわいらしいお雛様が並びました。着物の柄の選び方や髪型にも個性が出て、今しか作れない、素敵な表情のお雛様がたくさん出来上がっています。「これはね、〇〇ちゃんとぼくなの」と嬉しそうに教えてくれた子もいました。気持ちをこめて、大切に作り上げた子供たちは、嬉しそうで、誇らしげです。

先日は、年長組が学級ごとに詩吟の体験をしました。同窓生でもある吟道会館の古田先生に漢詩の意味を教えていただき、先生が言った通りに一段落ずつ、真似て言葉を言ってみます。普段聞きなれない難しい言葉がたくさんありますが、「少年老いやすく、学なりがたし〜」と言葉を一生懸命に言っていました。その後、キーボードから聞こえる日本音階と先生の声に合わせて、節をつけて吟じてみました。楽譜のヘビのような記号を見ながら、先生の声当真似て吟じようとする子供たち。なかなかできない体験です。先生の話をよく聴き、集中して取り組む姿に子供たちの成長を感じました。新しい体験に興味をもち、自分の中に取り入れていく子供たちは、これから様々な学習にも意欲的に取り組み、持続可能な社会の創り手として、力を発揮していくことと思います。

今年度はコロナ禍での園生活となり、感染予防対策をとりながら、例年の行事や活動を見直し、できる方法を工夫したり、別の行事に切り替えて行ったりしてきました。子供たちにとっては、遠足、プール遊びなど体験できなかったこともありますが、ゆったりした時間の中で、様々な場を使い、ゆったりと遊んだ年でもありました。砂や水、絵の具、シャボン玉などにたっぴりと触れ、試したり工夫したりする姿、ルールのある遊びを先生や友達と一緒に繰り返し楽しむ姿、ごっこ遊びの中でイメージを出し合い、必要なものを作り、遊びを楽しくしていく姿、様々なものになりきって楽しく表現する姿など、子供たちはやりたいことを見付け、自分から環境や友達に関わって遊びを楽しんでいました。自分から主体的に行動すること、うまく遊べない時は自分の気持ちを言葉で伝えること、気持ちを切り替えること、自分の出し方を変えたり友達のを考えを受け止めたりすると楽しく遊べることなど、様々なことに気付き、日々成長する子供たちの姿から、「どんな時も子供たちの遊びや学びは止まらない。いつも全力で生きている」ことを実感しました。

昨年末の幼稚園評価では、大勢の保護者・地域の皆様から貴重なご意見と高い評価をいただきました。コロナ禍での様々な取組を工夫し、手紙や掲示等でご説明し、子供たちの姿を短時間でも見ていただく機会をつくったことで、子供たちの成長を実感していただけたことが分かり、嬉しく思いました。今後は園の特色を分かりやすく発信し、園と保護者で話し合う場を大切に、心も体もたくましく、友達の思いにも気付く子供の育成を目指したいと思います。

本園の特色は、運動遊びの工夫、自然体験、日本の文化に触れる体験ですが、詩吟を教えていただける園は珍しく、同窓会が大人になっても続き、同窓会誌が毎年発行されているのも貴重なことです。これからも子供たちの思い出に残る、温かい園であり続けるよう、努力したいと思います。

1年間、子供たちの成長を温かく支え、ご協力いただいた皆様に、心から感謝申し上げます。